



閉じる



ダウンロード



印刷



文字拡大



文字縮小

芦屋市 令和 5年 3月 定例会（第1回） 03月22日－04号

P.214 10番（大原裕貴君）

◆10番（大原裕貴君）＝登壇＝日本維新の会を代表し、各会計予算について、賛成の立場で討論を行います。

まず、予算全体について、基本的には限られた資源を有効に活用すべく事業の取捨選択をしながら、堅実に財政運営をされているものと評価しております。

社会情勢としては、新型コロナウイルスの影響のみならず、物価や電力などの価格高騰による影響が市民生活を脅かしている状況です。ただ、抜本的な支援は、市単独で解決するものでもないと考えており、国・県との積極的な連携でもって、スピード感を持って対応してほしいと要望します。

また、市の予算といいますと、突発的な歳出が生じることも考えられるため、やはり慎重な財政運営を継続するようにお願いいたします。

本市に限ったことではありませんが、経常収支比率が高い傾向にあり、政策的経費の積極的投入が難しい状況にあります。しかし、経常収支というのは、義務的経費を含んでおり、動かしていくのが難しい部分であります。抜本的な解決を求めるには、業務効率の改善による収支の改善が必要であると考えており、そのための新行財政改革の計画が重要であると考えています。

新年度は、新行財政改革基本計画において一番の財政効果を見込むと計画をされています。目標達成のための積極的な取組は必要ですが、経費削減のための削減ではなく、より多くの行政サービスを実施していくための計画であることも意識してほしいと要望します。

本来目的を見失うことなく数値目標の達成を目指し、よりよい市民サービスにつなげていただくことを要望いたします。

新年度予算は、大きく変動する社会情勢を見据えた対応が含まれていると受け止めています。今後の社会情勢については、人口減などネガティブな見立てもありますが、5G、6G、7Gと続いていく通信技術の革新的発展なども見込まれています。

これからの社会情勢は、これまで以上にうまく立ち回らないと、社会の変化のスピードに取り残されてしまうおそれがあります。積極的に情報を集め、社会の変化に取り残されることがないように取り組んでいただくことを要望いたします。

また、新年度予算では、予算執行の大方針として、誰一人取り残さないという考え方を持っている点について評価をいたします。時に持続的な財政運営とは相反することもある姿勢であり、バランス感覚が求められる難しい姿勢であるとは思いますが、芦屋をよりよいまちにしていくためには、必要な姿勢であるとも思っておりますので、市全体で積極的に取り組んでもらいたいと要望いたします。

新年度においても、これまで同様、持続的で安定的な行政運営を続けるための財政運営を継続いただくことを要望し、賛成討論といたします。